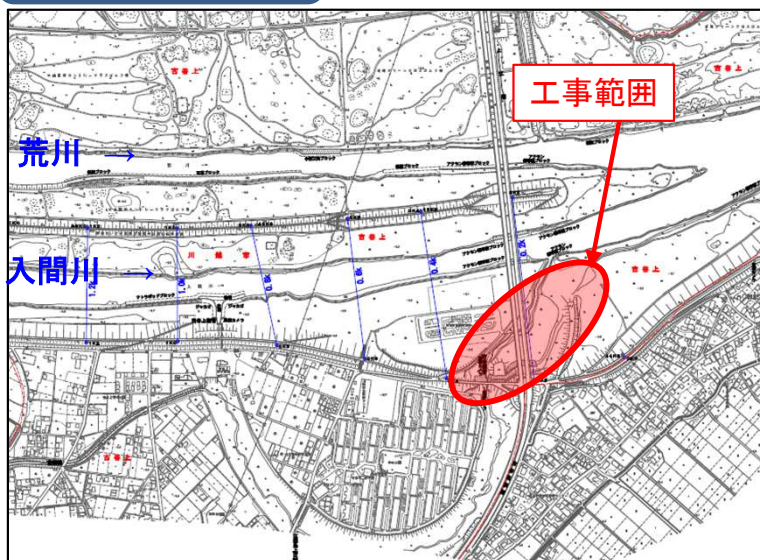


斜め写真

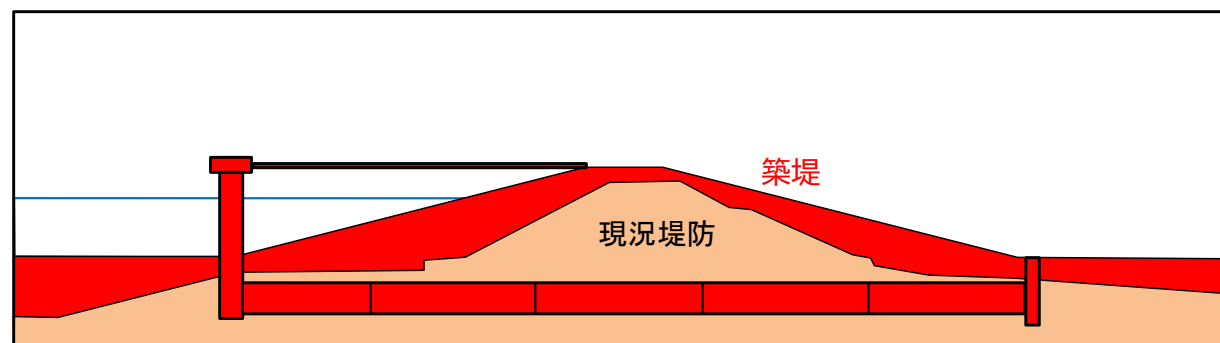


○着 手:令和3年11月
○完了予定:令和6年3月末

平面図

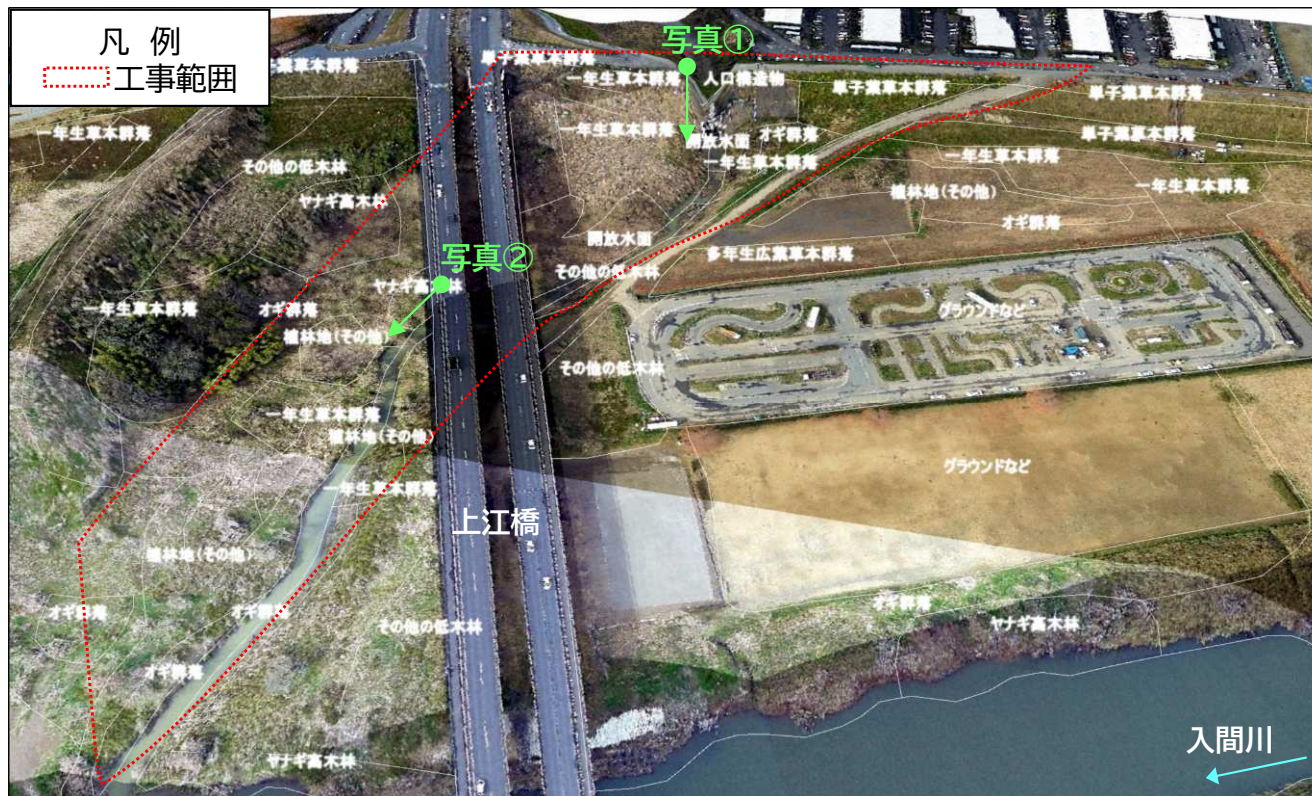


標準断面図



工事の考え方

・堤防の高さと幅が不足する区間において、堤防整備と合わせて樋管の改築を実施。また、多様な生物が生育・生息できる場の創出が期待できるよう緩流域の流路と緩傾斜の湿地を創出する基盤整備を実施。



写真① 古谷樋管より入間川方向



写真② 上江橋より入間川方向

河川環境情報データベース(<http://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/>)の植生図データより作成。植生区分は植物群落リストの植生基本分類に基づき区分。

主な環境

- ・調査範囲内は、主に草地で構成されている。
- ・草地は主にカナムグラ、クズなどの在来種が生育するカナムグラ群落、セイバンモロコシなどの外来種が生育する草本群落が広がり、ヤガミスゲなどの在来植物も確認されている。また、ハグロトンボやアオスジアゲハなどの昆虫類も生息している。
- ・堤防の草地に希少植物も確認されている。

環境配慮事項

- ・工事は、多自然川づくりに基づいた設計を行い、施工は、低振動・低騒音など環境配慮を実施。
- ・多様な生物が生育・生息できる緩流域、湿地の基盤整備を行い、堤防で確認された希少種については、基盤整備後の湿地に移植を行う。